



# 人と水をつなぐバーチャルミュージアム

人びとの暮らしに深くかかわりをもってきた水。

古くから「水の都」と称されてきた愛媛県西条市では、行政が主体となり、人と水の関係の過去と現在を検証し、未来を問い直す新たな取組みが実施されている

うちぬき広場



総合文化会館西側水汲み場

愛媛県西条市は、古くから「水の都」と称され、地下水が人びとの生活や農業・地場産業と深くかかわりあってきた。

この地下水は、地中に鉄管を打ち込めば湧き出ることから「うちぬき」といわれ、各世帯の生活用水を支える貴重な水源として市民に親しまれるとともに、市民共有の財産として守られてきたものである。また、西条市が進める独自のまちづくりを支える資源として存分に活用されてきた。まさに天恵の資源である。

おり、市民の水に対する思いの強さを今更ながら痛感している。

現在西条市は、大学や専門機関と連携して、市内全域における地下水の調査解析をおこなうとともに、研究者の参画をえて「地下水法システム研究会」を立ち上げ、地下水を「公水」と位置づけた保全策の立案・研究を実施している。おりしも

## 「水の歴史館」を開設するまで

西条市における人と水の緊密な関係について、過去と現在を検証することにより未来につなげていくことが行政の責務であると認識し、人と水との総合的な研究の場としてバーチャルミュージアム「水の歴史館」の開設を進めた。

開設にあたっては、①人と水②環境と水③産業と水の関係の三点を基本理念とし、西条市の水に対する思いが市内外に情報発信できる館運営を目指すことになった。

予算の裏付けはなく、その分知恵を絞って展示内容を自前で調製する作業は、想定外の枠をはるかに超える難事業となった。

しかし、この作業により開設に携わった職員が、水に対する思いを篤くしたことは想定外の副産物であった。

おもな展示内容は次のとおりである。

・水の歴史（うちぬき工事の今昔／井戸と井戸掘りの変遷／川の歴史等）

国においては「水循環基本法」（仮称）の制定を検討しているところであり、ときを同じく同事業について政策研究がおこなわれていることが不思議に感じられる。

今後は、これらの内容についてもコーナーを設け、情報発信をしたいと考えている。

なお、展示の一部は、民博で開催中の企画展「水の器」でご覧いただける。ウェブのURLは（<http://www.city.saijo.ehime.jp/mizunorekishikan/index.htm>）

ささき たかつぐ  
佐々木和乙

西条市役所生活環境部 部長

市独自で地下水資源調査解析事業をおこない、地下水を「公水」として位置づけ、「水は売らない」をキャッチフレーズに、地下水を活用したまちづくりを進めている。

・西条市水の資料館（地下水の自噴のしくみ／水質および水位調査の結果等）

・水辺の生き物（カブトガニ情報等）

・水のエッセイ（西条の水にまつわるお話）

・西条市の水収支

・水のふしぎ

・それゆけ突撃インタビュー

## 現状と課題

入館者、すなわちこのサイトにアクセスした人数は、二〇〇六年六月開館以降、二〇〇九年二月までで約二万九〇〇〇人である。

現在は、展示内容（データ）の更新がおもな作業となっているが、市外の方からは「うちぬき」を訪ねるための情報提供を求められることがしばしばあり、展示内容の工夫が必要であると考えている。

また、市民からは水に関する歴史についての内容の充実を求められて



水と親しむ青空教室